

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02556

研究課題名(和文) 18-19世紀大覚醒運動におけるジェンダーとテキストの関係についての研究

研究課題名(英文) Gender and Texts in the Great Awakening

研究代表者

増井 志津代 (Masui, Shitsuyo)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：80181642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：大衆を動員した18世紀大覚醒運動の記録が民衆的な関心を集め中流階級の読者層を開拓したことに注目した。19世紀には女性読者を中心とし小説が流行する。女性の回心に焦点を当てたエドワーズの大覚醒記録はトラクトとして人気を集め流行小説のヒロイン像を開拓した。この分析論文(Yale大学エドワーズ・センター紀要掲載)より始め、本研究では第二次大覚醒運動以降の19世紀作家作品と大衆向け宗教トラクトとの関係を調査した。2018年8月から翌年8月はハーヴァード大学歴史学部研究員として、ホートン図書館における調査を行うと共に、国際学会で2回報告した。同大学をはじめとするボストンに拠点を置く研究者との交流を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18世紀以降の宗教リバイバルと19世紀流行小説との関係を探る本研究は、ジョナサン・エドワーズが取り上げた女性回心者の記録が、19世紀アメリカ文学の女性像に強い影響を与えていることに注目した。その媒介となったのが宗教小冊子(トラクト)である。本研究は、大衆の読み物としてアメリカ全土に配布されたトラクトが多く読者を開拓し、特に人気の高いエドワーズによるアビガイル・ハチンソンの描写を起点として、薄命の少女像が19世紀アメリカ小説に頻りに登場し人々の心を動かす原因を検証した。無料、安価な大衆の読み物として配布されたトラクトと流行小説との関係に注目し、米国流行小説の黎明期の文化史を探ることができた。

研究成果の概要(英文)："Exploring the relation between gender and religion during the 18th and 19th century Great Awakening periods" was the major theme of this project. My paper "Female Piety and Evangelical Ritualization of Death," which dealt with Abigail Hutchinson's role in the Great Awakening led by Jonathan Edwards was the initial work I published for this project. Since then, I have pursued this theme for similar female figures who appear repeatedly in 19th century popular novels. Hawthorne, Poe, Alcott, Stowe and Twain, in particular used this female type in their works. From July 2018 to August 2019, I was affiliated with History Department, Harvard University, and continued my research on both American and British Tract Society publications at Houghton Library. I gave a paper on Phillis Wheatley at the NeMLA convention in March 2019. In August, I also gave a paper on conversion narratives at the John Bunyan Society International Conference, the University of Alberta in Edmonton, Canada.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：エドワーズ 大覚醒運動 流行小説 女性 宗教トラクト 宣教活動

## 1. 研究開始当初の背景

本テーマでの研究を開始した経緯は次のとおりである。2016年春、国際基督教大学で開催された国際ジョナサン・エドワーズ学会において、18世紀アメリカの大覚醒と女性の敬虔をテーマに発表を行ったところ、主催者よりエドワーズ学会研究論集特別号への投稿を進められた。論文は、“Female Piety and Evangelical Ritualization of Death: Abigail Hutchinson’s Conversion in *A Faithful Narrative*”と題してイエール大学ジョナサン・エドワーズ・センターの研究誌 *Jonathan Edwards Studies* に掲載された。これはエドワーズによる大覚醒記録『忠実なるナラティヴ』(*A Faithful Narrative of the Surprising Work of God*, 1737)で取り上げられた二少女の詳細な回心体験記録に着目し、宗教とジェンダーの関係をテーマに分析した論考である。この18世紀研究を、小説のジャンルが台頭する19世紀まで広げて、アメリカ文学作品への影響についての研究へと発展させたところ、科研プロジェクトとして採択された。これにより、海外リサーチに赴くことができた。特に2018年9月から2019年8月末まで、上智大学より与えられた研究年季を利用してハーヴァード大学歴史学部にも所属し、大学図書館を中心に資料収集を行った。2019年春には、ワシントンD.C.におけるNorth East MLA年次大会、同年8月にはカナダのアルバータ大学における国際バンヤン学会年次大会で、研究報告を行った。

## 2. 研究の目的

アメリカ宗教史と文学テキストとの関係を、ジェンダーの観点から探ることが本研究の目的である。エドワーズが記録した少女アビガイル・ハチンソンの回心から死までの記録(18世紀)は、19世紀を通じて、宣教を目的とした安価な宗教冊子(トラクト)に掲載されることで、辺境の地でも広く読まれることになった。18世紀を通じて、敬虔な女性の死のテーマは感傷小説に散見されるようになる。アビガイル・ハチンソンに似た信仰深く、若くして病死する少女達はホーソンやトウェイン作品にも頻繁に登場する。本研究では、女性の敬虔と死がどのように19世紀作品の中で結びついているのかを歴史的に追求した。また、多くの宗教トラクトをハーヴァード大学ホートン図書館でリサーチすることで、トラクトの多様な出版形態と、一般民衆への拡散、影響の強さについて検証することができた。

本研究の目的は、宗教と文学テキストの関係を探ることであるが、安価(あるいは無料)で配布される読み物であるトラクトで耕された民衆の読書経験が、小説の流行の一端を担うことになったことが確認できた。また、“Cult of Domesticity”と呼ばれる、19世紀に中流階級の女性が置かれた家庭内での特殊な立場を描く際に、アビガイル的な信仰深い少女を登場させることによりブルジョア層の女性読者層が開拓された。「家の中の天使」としての役割を求められる女性達にとって自己投影が可能な格好の読み物を、流行小説の形で得ることになったことがわかった。

## 3. 研究の方法

アメリカ文学における宗教とジェンダーの研究のため、米国に複数回調査旅行に出かけると同時に積極的に学会発表を行った。アーカイヴや図書館で資料にあたり、国際学会では研究者間の意見交流を行うことができた。特に1年間のサバティカル中に滞在したハーヴァード大学では、様々な研究企画に参加し、多くの研究者との交流が可能となった。キリスト教以外に、イスラム文化や哲学の研究、アフリカ系アメリカ研究、奴隷制研究においても新たな知見を得ることができた。

様々なコロキウムに参加するとともに、David D. Hall教授による初期アメリカの本の歴史についてのセミナー、社会学部Orlando Patterson教授の奴隷制に関する連続コロキウム、また神学部教授や大学院生を中心としたアメリカ宗教に関するコロキウムなどにも定期的に参加した。こうした成果を踏まえて、本研究は、2020年からは人種をテーマとした新科研へと展開させる。ホミ・バーバが所長を務めるマヒンドラ・インスティテュート主宰行事にも複数回参加して、ポストコロニアリズムを先導したこの思想家のハーヴァードにおける貢献を目にすることができた。特に、イスラエルとアラブとの対話企画が大変興味深かった。さらに、デュボイス・インスティテュートの連続講演会や特別イベントに参加して、人種のテーマについては多くの知見を得た。歴史学部では、ランチタイムに学部の教授一名が最近の研究テーマについて語る研究会もあり、大きな刺激を受けた。

## 4. 研究成果

本研究の背景となる初期アメリカの印刷文化についての研究を、遠藤泰生編『近代アメリカの公共圏と市民：デモクラシーの政治文化史』(東京大学出版会、2017年)所収論文「ニューイングランドの出版文化と公共倫理：プロテスタント・ヴァナキュラー文化の継承と変容」としてまとめることができた。この論文は、18世紀アメリカにおける出版と公共倫理の形成の関係を、民衆的な文化の展開を軸としてまとめたものである。ここではユニテリアニズムに注目した。本書には、増井が大学院時代に論文(博士論文)指導を担当して頂いたDavid D. Hall教授、翻訳を通じて知遇を得るに至ったJoyce Chaplin教授が論文を寄せている。Chaplin教授には、2018~19年にかけて、ハーヴァード大学に1年間研究滞在する際の

受け入れ担当となっただき、歴史学部の客員として迎えられた。滞在中も、両教授とは研究交流を継続することができた。

本科研期間中、アメリカ学会編『アメリカ文化事典』(丸善出版、2018年)の第六章「宗教」の項目編集を依頼され、森本あんり国際基督教大学教授と共に担当した。「福音派」(214～215)、「プロテスタント諸教派」(240～241)の項目執筆をすると共に、日本におけるこの分野の研究者を探して執筆依頼を行った。本書は、研究者だけでなく一般読者を対象とし、企業などの蔵書として役立つことを目指したものである。

上智大学アメリカ・カナダ研究所編『北米研究入門2:『「ナショナル」と向き合う』(SUP上智大学新書011)所収「アメリカのキリスト教と終末論」(2019年)では、現代アメリカの福音派の政治化について歴史的背景から概説を行った。17世紀ピューリタンの時代から継承されている終末論が、いかに現代政治にまで影響を与えているかについて歴史的に解説を試みた。本書は、上智大学で毎年提供される輪講科目「北米研究入門」のテキストとして用いられている。

上智大学アメリカ・カナダ研究所で行った共同研究の成果として“Phillis Wheatley as a Transatlantic Poet during the Second Phase of the Transatlantic Slave Trade from 1642 to 1808”を英語論文としてまとめて、研究報告書、上智大学アメリカ・カナダ研究所編『太平洋世界のグローバル・ヒストリー』(2018年)に寄稿した。さらに、2017年6月に早稲田大学で開催されたアメリカ学会第51回年次大会で招待発表した研究「第一次大覚醒と環大西洋福音主義文化の醸成:ピューリタン、敬虔派の交流を中心に」を「18世紀大西洋世界における福音主義文化の醸成」と題してまとめ、上智大学アメリカ・カナダ研究所『アメリカ・カナダ研究』35号に掲載した(3～23ページ、2018年)。

2018年3月2日、中央大学人文学研究所公開研究会・日本ナサニエル・ホーソン協会東京支部例会に招待され、「ジョナサン・エドワーズと19世紀アメリカ小説」と題した講演を行った。この内容は、本科研課題である女性の敬虔と死のテーマに関するものである。同じく、女性の敬虔と死をテーマとする研究“*African American Literary Voices in the First Great Awakening*”を、2019年3月23日にワシントンD.C.で開催されたNeMLA年50回年次大会で研究報告した。ここでは、18世紀のアフリカ系女性詩人Phillis Wheatleyの生涯と詩作について考察した。

さらに、2019年8月19日、カナダのエドモントン、アルバータ大学において開催された国際ジョン・バンヤン学会年次大会で、“*Olaudah Equiano's Interesting Narrative and 18<sup>th</sup>-century Transatlantic Evangelical Protestantism*”と題した研究発表を行った。様々な国から集まった研究者との交流機会を持つことができた。同時に、学会中、大学図書館所蔵のバンヤン『天路歷程』の特別資料が公開展示され、貴重な希少本を見ることができた。

2020年3月には、「女性の死」が重要なテーマとして取り上げられたナサニエル・ホーソン作品についての英語研究論文を、“*The Blithedale Romance and the Lore of the 'Haunting Margaret-Ghost'*”と題してアメリカ・カナダ研究所ジャーナル第37号に掲載した。ホーソンやエマーソン等、超絶主義者の仲間で、溺死したマーガレット・フラワーと、小説に登場する溺死する女性ゼノビアの共通点について考察した論文で、本科研のテーマをまとめることができた。

さらに、アメリカ学会年報『アメリカ研究』編集委員会より、第54号(2020年)の特集「メディアと情報」をテーマとする論文寄稿が依頼されたので、「第一次大覚醒運動と18世紀印刷文化—メソジストと人種」(21～43頁)を執筆し、掲載することができた。

本研究の成果は、論文や学会発表を通じて、様々な形で発表することはできているが、書籍としてまとめるに至っていないので、今後は研究書として出版することを目指したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 13
2. 論文標題 在外研究報告：アメリカ、ハーヴァード大学滞在記	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本ピューリタニズム学会年報『ピューリタニズム研究』	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shitsuyo Masui	4. 巻 1
2. 論文標題 Phillis Wheatley as a Transatlantic Poet during the Second Phase of the Transatlantic Slave Trade	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 太平洋世界のグローバル・ヒストリー：アジア、北米、島嶼地域を繋ぐ多方向的移動とネットワーク形成	6. 最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 35
2. 論文標題 18世紀大西洋世界における福音主義文化の醸成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アメリカ・カナダ研究	6. 最初と最後の頁 3-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 54
2. 論文標題 第一次大覚醒運動と18世紀印刷文化—メソジストと人種	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ学会年報『アメリカ研究』	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shitsuyo Masui	4. 巻 37
2. 論文標題 "The Blithedale Romance" and the Lore of the "Haunting Margaret-Ghost"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of American and Canadian Studies	6. 最初と最後の頁 31-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Shitsuyo Masui
2. 発表標題 African American Literary Voices in the First Great Awakening
3. 学会等名 NeMLA (Northeast Modern Language Association, USA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増井志津代
2. 発表標題 第一次大覚醒と環大西洋福音主義文化の醸成
3. 学会等名 アメリカ学会第51回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 増井志津代
2. 発表標題 ジョナサン・エドワーズと19世紀アメリカ小説
3. 学会等名 中央大学人文科学研究所公開研究会、日本ナサニエル・ホーソーン協会東京支部例会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shitsuyo Masui
2. 発表標題 Olaudah Equiano's "Interesting Narrative" and 18th-century Transatlantic Evangelical Protestantism
3. 学会等名 The 9th Triennial Conference of the International John Bunyan Society, University of Alberta, Edmonton, Canada (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 上智大学アメリカ・カナダ研究所編、小塩和人、増井志津代他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Sophia University Press上智大学出版;ぎょうせい (発売)	5. 総ページ数 326 (39-60)
3. 書名 北米研究入門2:「ナショナル」と向き合う	

1. 著者名 遠藤泰生 (編者)、増井志津代、中野勝郎、金井光太郎、佐々木弘通、森丈夫、ジョイス・チャプリン、久田由佳子、中野由美子、デイヴィッド・ホール、デイヴィッド・ジャフィー、	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 370(内、10章279～307ページ執筆担当)
3. 書名 『近代アメリカの公共圏と市民』(第10章「ニューイングランドの出版文化と公共倫理—プロテスタントヴァナキュラー文化の継承と変容」)	

1. 著者名 松本悠子、久保文明、遠藤康生、長畑明利、佐藤千登勢、西崎文子、増井志津代、森本あんり、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 960 (209-250ページ共編、209リード文執筆)
3. 書名 アメリカ学会編『アメリカ文化事典』、第10章「宗教」編集担当:増井志津代(共編)	

1. 著者名 増井志津代	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 960(214-215ページ)
3. 書名 アメリカ学会編『アメリカ文化事典』、項目執筆「福音派」	

1. 著者名 増井志津代	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 960(240-241ページ)
3. 書名 アメリカ学会編『アメリカ文化事典』、項目執筆「プロテスタント諸教派」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<a href="http://dept.sophia.ac.jp/is/amecana">http://dept.sophia.ac.jp/is/amecana</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考